



2010.03.16

「社会 이슈賛成・反対調査」結果発表

【成人年齢18歳】…男は「賛成」、女は「反対」

【夫婦別姓】…男は「反対」、女は「賛成」

社会 이슈に対する男女の意識に格差

博報堂生活総合研究所では、ここ数年で話題となっている社会 이슈に関する生活者意識を把握するため、全国47都道府県の15歳から69歳男女計3,340名を対象に、「社会 이슈賛成・反対調査」を2009年10月に実施しました。各社会 이슈について、「賛成」「反対」「どちらともいえない」の選択肢で意見を聴取しました。「どちらともいえない」の割合が5割未満のものに着目し、①「賛成」「反対」が男女で不一致 ②男女ともに「賛成」 ③男女ともに「反対」に分類。②③については男女の割合の差が10ポイント以上のものを中心に分析しました。生活者の生の声とともに、調査の結果をご紹介します。

【調査結果の要点】

① 「賛成」「反対」男女で不一致！

【成人年齢18歳】…男性は「賛成」(36.6%)、女性は「反対」(41.6%)。

- 男性は「賛成」(36.6%)が「反対」(28.8%)を上回る。一方、女性は「反対」(41.6%)が「賛成」(24.9%)を上回り、男女の意見が不一致となった。
- “年齢引き下げは大人を自覚する良いチャンス”と思う男性と、“未熟なおとなが増えてる今、年齢引き下げが社会問題の解決につながるとは思えない”と感じている女性の意識の差が浮彫りになった。

【夫婦別姓】…男性は「反対」(32.7%)、女性は「賛成」(26.3%)。

- 男性は「反対」(32.7%)が「賛成」(19.2%)を上回った。しかし、女性は僅差で「賛成」(26.3%)が「反対」(24.0%)を上回り、【成人年齢18歳】と同様に男女不一致だった。
- 男性は夫婦別姓によって日本の伝統や文化が崩壊することを懸念している意見が目立った。一方、女性は時代の変化や流れに前向きな意識を持っているようだ。

② 男女とも「賛成」！

【一夫一婦制】…男性64.8%<女性79.6% 男女差14.8ポイント

- 男女とも「賛成」の方が多かった。
- 女性の意見から“一夫一婦制は男女平等のカタチのひとつ”“女性も一人の人間として認めて欲しい”という欲求が感じられた。

【ハッピーマンデー制度】…男性48.8%>女性37.3% 男女差11.5ポイント

- 男女とも「賛成」の方が多かった。
- 男性は“しっかり休んだ方が効率的”“経済効果が期待できる”など社会的効果に関して期待する意見が多かった。

他にも【女性専用車両】、【介護付きマンション】、【エコバッグ】、【そこそこの幸せ】、【情報化社会】、【地上波デジタル放送への移行】は男女ともに「賛成」の方が多く、男女差も10ポイント以上あった。女性の「賛成」が男性より高い 이슈は【女性専用車両】、【介護付きマンション】、【エコバッグ】、【そこそこの幸せ】。逆に、男性が高い 이슈は【情報化社会】、【地上波デジタル放送への移行】だった。

③ 男女とも「反対」！

【地方空港】…男性41.9%>女性30.4% 男女差11.5ポイント

- 【地方空港】は、男女とも「反対」の方が多かった。
- 男性は、【地方空港】が抱えている問題の解決策のひとつとして、飛行機とその他の公共交通機関の連携に関する意見を多くあげていた。

本件に関する
お問合せ先

株式会社博報堂 博報堂生活総合研究所
株式会社博報堂 広報室

小原・夏山 TEL：03-6441-6450
西尾・大迫 TEL：03-6441-6161

① 「賛成」「反対」 男女で不一致！

【成人年齢18歳】 男性は「賛成」(36.6%)、女性は「反対」(41.6%)。

- 男性は「賛成」(36.6%) が「反対」(28.8%) を上回る。一方、女性では「反対」(41.6%) が「賛成」(24.9%) を上回り、男女の意見が不一致となった。
- 男女別に「賛成」「反対」に関する具体的な意見を見ていくと、“年齢引き下げは大人を自覚する良いチャンス”と思う男性と、“未熟なおとなが増えてる今、年齢引き下げが社会問題の解決につながるとは思えない”と感じている女性の意識の差が浮彫りになった。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|--------------|--------------|
| 合計 | 30.7% | 35.2% |
| 男性 | 36.6% | 28.8% |
| 女性 | 24.9% | 41.6% |
| 男女差 (男-女) | 11.7pt | ▲12.8pt |

男性の「賛成」意見

- 社会的責任を早いうちから実感させるための良い機会だと思うから。(18歳)
- 少しでも責任を持って生活できるようにならなくてはいけないと思うから、18歳からの成人には賛成。(30歳)
- 18歳になれば、もう立派な大人。(68歳)

女性の「反対」意見

- 今の時代の18歳は考えが幼すぎるから。(19歳)
- むしろ引き上げた方がいいと思えるほどに幼稚な大人が増えているのに、これ以上若い成人を増やしてどうするか。(28歳)
- 最近の子どもは昔よりも心の成長が未熟すぎ。大人自体がお手本となれない現実があるのでそれをクリアしなければ無理である。(58歳)

【夫婦別姓】 男性は「反対」(32.7%)、女性は「賛成」(26.3%)。

- 男性の「反対」(32.7%) が「賛成」(19.2%) を上回った。しかし、女性は僅差で「賛成」(26.3%) が「反対」(24.0%) を上回り、【成人年齢18歳】と同様に男女不一致だった。
- 男性は夫婦別姓によって日本の伝統や文化が崩壊することを懸念している意見が目立った。一方、女性は時代の変化や流れに前向きな意識を持っているようだ。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|--------------|--------------|
| 合計 | 22.8% | 28.3% |
| 男性 | 19.2% | 32.7% |
| 女性 | 26.3% | 24.0% |
| 男女差 (男-女) | ▲7.1pt | 8.7pt |

男性の「反対」意見

- 伝統を壊すことになるから。(19歳)
- 男目線ではそういう文化があるので守ってもいいかと思う。ただ面倒な諸手続きを簡便化するシステムができれば、よいかと。(29歳)
- 夫婦は社会構成の最小セルであろうと思います。これを個人に分解する必要は無いと思う。(52歳)

女性の「賛成」意見

- 自由な生き方、色々な生き方があると思う。(26歳)
- 『こうではならない。』という固定概念をなくす事と、夫婦同姓になる事で片方の氏が消滅してしまう現実を回避する事ができるため。(41歳)
- 女性の社会進出が著しい今、自由に選べるのは賛成。(69歳)

参考 【同性愛】 男性は「反対」(26.9%)、女性は「賛成」(28.7%)。

- 【同性愛】に関しては、「どちらともいえない」の割合が5割を超えるものの、上記2つの 이슈と同様に男女で「賛成」「反対」の意見が不一致。男性は「反対」(26.9%) が「賛成」(18.3%) よりも多かった。それに対して女性は「賛成」(28.7%) が「反対」(13.1%) の2倍以上のスコアだった。
- 男性は、自然の摂理や倫理観にそむくことを理由としてあげているのに対し、女性は、恋愛の多様性を認めようとしているコメントが多かった。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|--------------|--------------|
| 合計 | 23.5% | 20.0% |
| 男性 | 18.3% | 26.9% |
| 女性 | 28.7% | 13.1% |
| 男女差 (男-女) | ▲10.4pt | 13.8pt |

男性の「反対」意見

- 人間の根本的な部分に反する。(19歳)
- 自由や平等といった観念以前に、自然の本来のありかた、社会の本来のありかたに反している。(34歳)
- 男女別の役割があり、自然の摂理に反する行動である。(67歳)

女性の「賛成」意見

- だって仕方がないじゃないですか？なんで人の心を制限されなきゃなんないんですか？(16歳)
- 愛には様々な形がある。(21歳)
- 色々な人がいる、受け容れてあげたい。(51歳)

※調査結果は、各イシューとも「賛成」「反対」の比率のみ表示してあります。「どちらともいえない」は非掲載としました。

② 男女とも「賛成」!

【一夫一婦制】 男性64.8%<女性79.6% 男女差14.8ポイント

- 男女ともに「賛成」が6割を超え、女性は8割(79.6%)近い。
- 女性の意見から“一夫一婦制は男女平等のカタチのひとつ”“女性も一人の人間として認めて欲しい”という欲求が感じられた。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|---------|-------|
| 合計 | 72.2% | 3.8% |
| 男性 | 64.8% | 5.3% |
| 女性 | 79.6% | 2.3% |
| 男女差 (男-女) | ▲14.8pt | 3.0pt |

男性の「賛成」意見

- どちらが多いと、男尊女卑もしくはその逆になるから。(20歳)
- やはり経済的にもベスト。(27歳)
- 経済力で何人も持てる制度より、良いと思うから。(61歳)

女性の「賛成」意見

- 一夫多妻は、女性を少しないがしろにしているような気がする。(17歳)
- お互いに平等でいいと思う。(27歳)
- 一夫多妻は女性軽視です。逆はあり得ないでしょうから。(40歳)

【ハッピーマンデー制度】 男性48.8%>女性37.3% 男女差11.5ポイント

- 男性は“しっかり休んだ方が効率的”“経済効果が期待できる”など社会的効果に関して期待する意見が多かった。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|--------|--------|
| 合計 | 43.1% | 24.3% |
| 男性 | 48.8% | 19.3% |
| 女性 | 37.3% | 29.2% |
| 男女差 (男-女) | 11.5pt | ▲9.9pt |

男性の「賛成」意見

- 仕事の効率が上がるし、レジャーに費やす人も増え、経済効果がある。(22歳)
- オンオフのメリハリがあってよい。(48歳)
- 経済の活性化にも繋がるし、個人的にも楽しめると思う!(68歳)

女性の「賛成」意見

- プチ旅行に行く人が増える→経済の活性化。(19歳)
- 体もしっかりリフレッシュ出来るし、外出率も上がり経済回復につながる気がするから。(26歳)
- 連休が増えるので、ゆったりと過ごせますし、家族で遠出ができる機会も増えると思います。(43歳)

※調査結果は、各イシューとも「賛成」「反対」の比率のみ表示してあります。
「どちらともいえない」は非掲載としました。

② 男女とも「賛成」!

【女性専用車両】 男性44.7%<女性67.8% 男女差23.1ポイント

- 男女ともに「賛成」で、特に女性の「賛成」が約7割(67.8%)。
- 「賛成」の割合を男女別で比較すると、女性の「賛成」(67.8%)が男性の「賛成」(44.7%)を上回り、その差は23.1ポイントと圧倒的に女性の割合が高かった。
- 男性の「賛成」(44.7%)は、「反対」(21.8%)の2倍以上だった。
- 女性の意見を見ると、女性専用車両はもちろんのこと、男性専用車両の提案があるなど、男性の立場に立ったコメントが多く見られた。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|---------|--------|
| 合計 | 56.3% | 14.2% |
| 男性 | 44.7% | 21.8% |
| 女性 | 67.8% | 6.6% |
| 男女差 (男-女) | ▲23.1pt | 15.2pt |

男性の「賛成」意見

- 女性を守るためになるから。(24歳)
- 痴漢に間違われたくないから。男性専用車両もぜひつくってください。(33歳)
- 女性が安心して乗るためにも、男性がチカンの冤罪を受けないためにもあってほしいと思う。(54歳)

女性の「賛成」意見

- 男性としては変に痴漢に間違われたくないと必死になって電車に乗っている人もいと聞くので、こういった車両を作った方が良いと思う。(19歳)
- 痴漢による冤罪が減るのでは?しかし不公平なので、男性専用車両も試験的に作ってみてはと思う今日この頃です。(25歳)
- 女性にとってはもちろんですが、あらぬ疑いをかけられてしまうこともあり得る男性側にとっても、いいことだと思う。ある意味、男性専用車両もあってほしいと思う。(47歳)

【介護付きマンション】 男性53.5%<女性65.7% 男女差12.2ポイント

- 男女とも「賛成」が5割を超えた。
- 女性は介護を身近な問題と捉えているため、【介護付きマンション】は自分自身の負担軽減策のひとつになると考えているようだ。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|---------|-------|
| 合計 | 59.6% | 3.7% |
| 男性 | 53.5% | 4.5% |
| 女性 | 65.7% | 2.9% |
| 男女差 (男-女) | ▲12.2pt | 1.6pt |

男性の「賛成」意見

- 介護はもう社会問題。出来る事なら家族で協力が望ましいが、プロの手を借りつつ協力をするほうが有意義。(29歳)
- 高齢者が増えているので一つのスタイルとしてよいのでは。(38歳)
- 高齢化社会では必要。(54歳)

女性の「賛成」意見

- 現状、介護を手伝っているのもそういう場所があるとありがたいと思う。やはり限界が来てしまうから。(25歳)
- 今後、自分や自分の親の老後を考えてとこのような施設があればいいと思ったから。(39歳)
- 自立して子供に頼らずにやって行けるのは賛成だが、普通の人でも入居出来る料金でない。(60歳)

※調査結果は、各イシューとも「賛成」「反対」の比率のみ表示してあります。
「どちらともいえない」は非掲載としました。

② 男女とも「賛成」!

【エコバッグ】 男性71.5%<女性82.8% 男女差11.3ポイント

- 男女ともに7割以上が「賛成」。
- エコバッグを持つことが環境保護につながるということ以外に、“ファッションとしても楽しめる” “周囲の人に環境保護の意識付けになる” “企業の経費削減につながる” など、意識や活動が広がっていることが読み取れる。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|----------------|-------|
| 合計 | 77.2% | 5.6% |
| 男性 | 71.5% | 7.8% |
| 女性 | 82.8% | 3.3% |
| 男女差 (男-女) | ▲11.3pt | 4.5pt |

男性の「賛成」意見

- ゴミの軽減、意識の上昇。(28歳)
- 余計なゴミを減らせる、企業側もコストカットできる、地球環境にもやさしい、と特にマイナスの要素がないから。(30歳)
- 反対理由ありません。バックのトレイ、ビン、缶も減量しよう。(52歳)

女性の「賛成」意見

- エコに関して一般の人に意識づけられるから (19歳)
- ビニールは減らすべきなので。新しいオシャレとしてもいいと思うので。(27歳)
- 温暖化対策の第一歩です。(59歳)

【そこそこの幸せ】 男性60.3%<女性70.4% 男女差10.1ポイント

- 傾向としては、“個人の幸せ” に関することが大半だが、それ以外に目立ったのが “そこそこの幸せに満足できれば、平和な世界になる” といった社会や世界全体へのあり方へも言及するコメントだった。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|----------------|-------|
| 合計 | 65.3% | 3.3% |
| 男性 | 60.3% | 4.0% |
| 女性 | 70.4% | 2.6% |
| 男女差 (男-女) | ▲10.1pt | 1.4pt |

男性の「賛成」意見

- 幸せを追求したらきりががないから。(24歳)
- みんながそこそこの幸せで満足すれば平和になると思う。(35歳)
- 人生に対する充実感を、多くの者が感じられる社会は、安定するのではないか。(54歳)

女性の「賛成」意見

- 小さな幸せいっぱいというのが本当の幸せだと思う。(16歳)
- 誰もがそれで満足していれば戦争も貧富の差も減らせるのに。(48歳)
- みんなが享受する権利があると思います。(69歳)

※調査結果は、各イシューとも「賛成」「反対」の比率のみ表示してあります。
「どちらともいえない」は非掲載としました。

② 男女とも「賛成」!

【情報化社会】 男性56.0%>女性43.6% 男女差12.4ポイント

- 男女ともに「賛成」が「反対」を大きく上回り、男性の「賛成」(56.0%)は5割以上。
- 男性は情報化が社会課題を解決するひとつのきっかけになると期待しているようだ。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|--------|-------|
| 合計 | 49.8% | 3.4% |
| 男性 | 56.0% | 3.8% |
| 女性 | 43.6% | 3.0% |
| 男女差 (男-女) | 12.4pt | 0.8pt |

男性の「賛成」意見

- ユビキタス社会はバリアフリーにつながると思う。(31歳)
- 各個人の意思で行う情報のコントロールこそが情報社会。そんな社会がいい。(38歳)
- 地域の格差が是正されるだろうと思います。(52歳)

女性の「賛成」意見

- 自分自身で数ある情報の中から本物を探すということも勉強だと思った。(28歳)
- 検索エンジンが本当に便利だと思うから。ネットバンキングも記帳しなくても自宅で入金履歴がわかったりほんと便利。(29歳)
- 何かを判断する時、情報は役立つ場合があるため。(46歳)

【地上波デジタル放送への移行】

男性38.3%>女性26.8% 男女差11.5ポイント

- 男女ともに「賛成」が「反対」を上回るものの、他の 이슈 に比べると賛否に大きな差は見られない。
- 【地上波デジタル放送への移行】に関する意見は多岐にわたり、電波の有効利用、省エネ、高画質・高音質、双方向性、データ放送の利便性などがあげられた。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|--------|-------|
| 合計 | 32.5% | 23.5% |
| 男性 | 38.3% | 24.1% |
| 女性 | 26.8% | 22.8% |
| 男女差 (男-女) | 11.5pt | 1.3pt |

男性の「賛成」意見

- 情報化社会に伴って移行するべきだと思う。(18歳)
- 電波の有効利用。(29歳)
- 画面の美しさに加えて双方向サービスが可能になり視聴可能エリアも拡大すると共に、空電波を有効に利用できる。(67歳)

女性の「賛成」意見

- 画質がよく、視聴者参加型のメディアになると思うため。(21歳)
- デジタル放送はいろんな情報が必要な時に見られて便利。天気予報は良く見えます。(31歳)
- デジタル化された美しい画像と音声、双方向通信、インテリアとしても違和感なく置ける薄型テレビなど、ハード・ソフト共に充実している。(48歳)

参考 【男の美容】 男性26.5%<女性40.7% 男女差14.2ポイント

- 【男の美容】は「どちらともいえない」の割合が5割を越えるものの、「賛成」の男女差が10ポイント以上あった。
- 男性の「賛成」(26.5%)は、「反対」(17.1%)と10ポイント近く差がひらいた。
- 女性は「男性がきれいになることに関心を持つことで、男性としての魅力向上につながる」と考えているようだ。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|---------|-------|
| 合計 | 33.6% | 13.7% |
| 男性 | 26.5% | 17.1% |
| 女性 | 40.7% | 10.3% |
| 男女差 (男-女) | ▲14.2pt | 6.8pt |

男性の「賛成」意見

- 男らしい美容があってもよい。(21歳)
- 大いに賛成。ビジネスにおいても清潔感是非常に大切。過剰は不要だがある程度の美容の意識も必要。(33歳)
- 特に加齢と共に美容に心がけるべきと考える。(69歳)

女性の「賛成」意見

- 男の人も見た目、中身ともにきれいを見てほしいので。(30歳)
- きれいになることは自信をつけることでもあるから、大事なこと。(41歳)
- 男性も色気を失ってほしくない。(53歳)

※調査結果は、各イシューとも「賛成」「反対」の比率のみ表示してあります。
「どちらともいえない」は非掲載としました。

③ 男女とも「反対」!

【地方空港】 男性41.9%>女性30.4% 男女差11.5ポイント

- 男女で「賛成」と「反対」の差を比較すると、男性のスコア差 (26.0pt) は、女性のスコア差 (10.4pt) の2倍以上となった。
- 男性は、【地方空港】がかかえている問題の解決策のひとつとして、飛行機とその他の公共交通機関の連携に関する意見を多くあげていた。

| | 賛成 | 反対 |
|-----------|--------|---------------|
| 合計 | 18.0% | 36.2% |
| 男性 | 15.9% | 41.9% |
| 女性 | 20.0% | 30.4% |
| 男女差 (男-女) | ▲4.1pt | 11.5pt |

男性の「反対」意見

- 利用客が分散しすぎて経済的に短期的効果しかないから。大都市の空港から新幹線などの中距離輸送を使うべきだと考えているから。(17歳)
- 赤字しか出さないなら閉鎖すれば良い。その代わり陸路の充実を。(35歳)
- 不必要。高速道路・JR・船便等々交通網全体を見直して、大きなグランドデザインが必要。(59歳)

女性の「反対」意見

- 飛行機が多くなると、近くに住む人はうるさくて仕方がない。(19歳)
- 多すぎて無駄。地元にもあるけど利便性悪いので、他県の空港を利用しています。(27歳)
- 空港ができてそこに行くまでの手段が整備されていないと無意味。(51歳)

※調査結果は、各イシューとも「賛成」「反対」の比率のみ表示してあります。
「どちらともいえない」は非掲載としました。

[調査設計]

■ 調査目的

日常生活においてここ数年で話題となっている社会 이슈に関して、生活者の意識を「賛成」「反対」の尺度で把握する。

～本報告で使用した質問～

Q) 各項目について、あなたの意見をお聞かせください。(単一回答)

1. 賛成 2. 反対 3. どちらともいえない

SQ) あなたが、そのように思ったのは、なぜですか。

その理由について、どんな些細なことでも結構ですから、できるだけ具体的にご記入ください。
(自由回答)

■ 調査地域

日本全国 47 都道府県

■ 調査手法

インターネット調査

■ 調査対象

15 歳から 69 歳までの男女 3,340 サンプル (有効回収数)。

全国を 8 地区に分割し、エリア別人口構成比に応じて割付。

性年代は 10 歳刻みで均等割付 (10 代のみ、他の年代の半数)。

| 合計 | 北海道 | 東北 | 関東 | 中部 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州 |
|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|----|-----|
| 3,340 | 154 | 266 | 1,069 | 604 | 540 | 222 | 88 | 397 |

■ 調査時期

2009 年 10 月 17 日 (土) ～ 18 日 (日)

関連ニュースリリースのご案内

生活動カ 2010「態度表明社会」 (2009 年 12 月 16 日既報)

世界同時不況から 1 年余。生活者は生き方の抜本的な見直しを迫られるようになりました。また、様々な社会問題が日常生活へ降りかかる中、受身で待つのではなく、自らが率先して変わらなければ続かない、という意識が広がり始めています。こうした社会背景のもと、生活者はゼロベースでものごとを考え、態度で表明するようになりつつあります。

何かを選択する場合でも、「好き・嫌い」という基準から、「賛成・反対」へと変化していきます。詳しくは、以下のウェブサイトから生活動カ 2010「態度表明社会」をご参照ください。

生活総研 ONLINE

RESEARCH NEWS「態度表明社会」(URL : http://seikatsusoken.jp/pdf/RN_20091216.pdf)